

無所属だなどつくづく思う。政治の話ではない。この前、郡山に行った。第一の目的は、100年フードにも認定された郡山ブラックラーメンである。さすがに混んでいたが、所期の目的は達成された。

さて、どうするか。珈琲をどこのお店で飲むのかという問題である。いつもの所に行くか。実に無難である。間違いはない。いや、新規開拓をしてみるか。しばらく検討会を開き、ここはいけそうだと判断したお店へと向かった。

目的地に向かう途中で気がついた。何か見覚えがあるルートだった。一度来たことがある場所だった。以前、お店が休みだと判断し、帰ってしまったことがあった。今思えば、お店はやっていてと思われる。やっている気配、雰囲気はなかっただけである。

お店に入る。どのお店にも、そのお店の雰囲気というものがある。お客さんは、皆、似たような雰囲気の方だった。偶然ではないだろう。類は友を呼ぶということか。では、我々が似たような雰囲気の持ち主かということ、どうも違うように思われた。かといって、浮いてしまうかということ、そこまでではない。

いろいろなお店や場所に行く。それぞれの雰囲気というものがある。行ったはいいが、そこに馴染めずに居づらいこともある。まあ、社会勉強だと思えば、さほどのことではない。結局、我々はどんなお店、どのような空間ならば、しっくりくるのか。それがわからない。まるで無所属なのである。ここであれば落ち着けるという場所が少ない。特段、困ってはいないが、寂しさを否定することもできずにいる。

今回のお店は、イメージ通りのスペシャリティコーヒーのお店だった。私がオーダーした一杯に付いてきたカードには、こんな紹介があった。

アプリコットやキャラメルの味わい、カルダモンロールのようなスパイシーさを伴ったうまみをお楽しみいただけます。

これだけでは、珈琲だとはわからないだろう。またいいお店を見つけてしまった。無所属も、そうわるくはない。無所属の強みは、どこにでも参加できることである。これからも、無所属を楽しんでいきたい。